

気象ビジネス推進コンソーシアム第 11 回運営委員会議事概要

- ・日時 平成 31 年 1 月 22 日（金）16：00～18：15
- ・場所 気象庁 2 階 講堂
- ・出席者 委員 18 名中、17 名出席（1 名代理出席、1 名欠席）

○は、運営委員あるいは事務局からの発言を示し、→は運営委員の発言に対応する事務局の発言を示す。

<審議事項>

1. 運営委員の変更（資料 1：3 ページ）

農業・食品技術産業技術総合研究機構の大野様の人事異動に伴う所属の変更について了承。

2. 危機管理産業展（RISCON TOKYO）2019 への協力について

【決定事項】

危機管理産業展（RISCON TOKYO）2019 特別併設企画「気象ビジネス EXPO（仮称）」企画協力について、承認する。

○10 月とまだ先の話だが、ブースやセッション等の準備が必要と思う。事務局は是非力を入れていただきたい。会員の方でも協力できることがあればお願いしたい。

3. 平成 31 年度の WXBC の運営体制・活動内容（案）

【決定事項】

平成 31 年度の WXBC 運営体制、活動内容案について、本運営委員会が出された意見を踏まえ修正し、2 月の総会で審議いただく。

○平成 29 年 3 月の WXBC 設立以降、人材育成 WG、新規気象ビジネス創出 WG の 2 つの WG を作り実際の活動を行っている。これまで WXBC 会員数は設立時の 215 から 540 と大きく増加している。気象データの利活用に関する関心は高まっていると思う。現状大きな問題もないことから、運営体制を維持するとともに、これらの活動のベースも変更せず、次年度も引き続き継続して実施していくこととしたいと考える。一方で、WXBC 広報活動にはより一層注力し、更なる活動に繋げていくべきと考える。各 WG の具体的な活動計画についてはそれぞれの WG 座長より、広報関係については事務局より合わせて報告をお願いする。

○人材育成 WG では、テクノロジー研修に関して IoT チャレンジ！や AI チャレンジ！を新規コースとして開催することを検討しているとのことだが、可能であ

ればより具体的な内容について教えていただきたい。

- 企画の詳細については調整を行う前の段階であるので一案としてお聞きいただきたい。IoT チャレンジ! は、気象データの活用に主軸をおき、1日か2日かのコースで、IoT の概要や Raspberry Pi の利用例を説明した上で、気象データや他の IoT 機器が収集したデータのダウンロードに取り組んでいただき、時間の余裕があれば、グループワークとして気象データを素材にした IoT 活用の可能性をテーマにした討論を行っていただくことを考えている。AI チャレンジ! に関しては、プログラミングに取り組むのではなく、データさえ打ち込めばアウトプットが出せるレベルのものを利用し、気象データを活用した AI 分析ができないか調査をしている。
- 会員数の増え方を見ると、広報は上手く行われているように思う。活動に関しては、最初は皆ボランティアで取り組む部分もあるのでこれで良いかと思うが、今後の方向については検討が必要と思う。例えば、人材育成 WG の活動に関しては、初心者向けデータ分析講座の開催やツール類等の提供サービスについて、新規気象ビジネス創出 WG に関しては、マッチングイベント等の企画について、いつまで継続するのか考えた方がよい。命がけで商売している方々も、最初はボランティアで協力しているかと思うが、しばらくすると利益にならない活動はしばむ懸念がある。これであれば10年持続するだろう、と納得できるようなロジックが今は見えない。直ぐに答えを出すのは難しいと思うが、次の段階に進むにあたっては、そのような側面も取り入れるべきと思う。
- 人材育成 WG の次年度計画の提案内容には、WXBC 全体で推進すべきものも含まれているように思うが、これについて人材育成 WG が担うことに問題はないか。また、人材育成 WG でよく話題にあがる題材として、気象予報士のこれからのキャリアの問題がある。気象データアナリストや気象ビジネスコーディネーターといった立場の方を養成する、そのような制度を設けるということが気象ビジネスの推進に大きく貢献するのではないかと思うので、運営委員会で今後ご検討いただければと思う。
- 交通政策審議会気象分科会提言にも気象データアナリストが盛り込まれており、気象ビジネスコーディネーターは積極的に検討すべきテーマと思う。気象ビジネスコーディネーターとして、どのような人がどの地方に何人程度いたら良いのかといったことを議論しつつ、気象ビジネスコーディネーターのような人材を育成することを目的に、人材育成 WG でツール類の整備を行っていけばよいのではないか。「気づき」ができて、自分で実践的に行動し、地方の方にも具体的にシステムを提案、作成できるような人材を育成できるよう、知恵を集めて議論していきたい。
- 広報に関しては、気象データを広めることは WXBC の名前を広めることと同じであると地方に勤務していて感じた。WXBC のマークや名前を、運営委員の企業の皆様を中心に様々な場所で使っていただきたく思う。さまざまな広報媒体が

あるが、全国展開している企業の皆様の広報資料にマークや名前が入ることで、気象データは難しく縁遠いと思っている地方の方々に、気象データがもう少し普通のものとして捉えていただけるようになると思うので、お願いしたい。

- 気象データの活用に関して、例えば流通制御のプログラムでは、気象データ以外にも様々なデータが重要であると聞く。気象データだけが世の中の全てではない。また、AI、IoT 技術に対する社会的な機運を考えると、AI、IoT に関する似たような他の活動との連携を取った方が爆発的な展開を見せるのではないかと思う。気象データに留まらずよりスケールの広い分野に展開していく感じが出せると良い。危機管理産業展への協力もその一つの手段かもしれない。人材育成においても、気象のことだけを勉強すれば良いというわけではない。気象以外のデータも含めて様々なデータを自由に操り、顧客の役に立つものを作る必要がある。そのような活動をしていく必要があると思う。
- WXBC の場でどのような活動をしていくかは、会員の皆様の総意で決まるものである。今後、命を懸けてビジネスに取り組まれている方々が、WXBC の場に何を期待し、何に取り組んでほしいかということも WG の場を出していただければと思う。意見を出していただければ、我々で集約して活動に盛り込んでいくことができる。再来年度の計画を立案するタイミング、または年度の途中でも構わない。
- データ提供環境の構築に関しては、かねてより要望していたことだが、予想よりはるかに早く行動に移していただいた。ただし、気象庁の予算も限られている中で、いずれは WXBC 会員企業が自らの環境を提供することにメリットを感じるようなロジックを考えていった方が良いのではないかと感じた。
- リアルタイムのデータ提供の枠組みとの兼ね合いも考える必要がある。来年度のデータ提供は、どの位のアクセスがあるかを計測する機会にもなると思う。アクセスが殺到して通信速度が遅くなり、利便性が低下する恐れもある。国の予算を有効活用し、試行や調査を行いたい。
- リアルタイムのデータ配信はこれとは別という考えで良いか。
- リアルタイムのデータ提供について何か取り組むという予定はない。

以上